

黙示録 20 章 1 節-6 節スタディーガイド

★ 黙示録 20 章 1 節-3 節

また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って、底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

1 節「御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下って来るのを見た。」底知れぬ所は、ルカの福音書 8 章 31 節にも書かれています。イエス様がガリラヤ湖の向こう岸に行かれた時、悪霊につかれた男が、墓場で叫んでいたという記述のところです。

ルカの福音書 8 章 31 節「悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。」悪霊たちが最も恐れている場所、と考えられます。

ユダの手紙 1 章 6 節「主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。」この「暗やみの下」も同じ所だと考えている神学者もいます。

黙示録 9 章 1 節「私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。」第 5 のラッパの災難の時、この穴が開けられ、悪霊の軍勢が現れ、人間を苦しめることが許されています。

「底知れぬ所」とは、どこまでも底が見えない所だと思ってしまうのですが、神学者たちの考えでは、天井しかない、全く休むことができない所と考えられています。

黙示録 20 章 2 節「悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕らえ、これを千年の間縛って」千年王国では、サタンは働くことができません。

3 節「底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。」千年王国では人間を惑わすことが許されないだけでなく、牢から出ることもできず、休むこともできないのです。

3節「サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。」

反キリストと偽預言者の仕事は終わりました。しかしサタンの仕事は終わっていません。

ゼカリヤ 14 章 16 節で、ご再臨の時に生き残った者は、千年王国で主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うためにエルサレムに上って来ます。この人々の子孫は、ご再臨の主の麗しいお姿を知らない者たちです。サタンの誘惑はありませんが、神様に逆らう人々がいます。

イザヤ書 65 章 20 節「そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命の満ちない老人もない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。」

現在は、わずか数日で死ぬ赤ちゃんや若くして死ぬ人がいます。しかし、千年王国では皆、生き続けることができ、百歳の人が若い者とされます。

イザヤ書 65 章 20 節「百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。」

サタンの誘惑がなくても、神様のおきてに従わない者がいます。百歳までで罪人は死を迎えると思われまふ。彼らのために、多くの王と祭司が遣わされていますが、それでも主を信じない者は百歳以上生きることを許されない様子です。

千年王国の最後に、サタンがもう一度解放されて人間を誘惑することが許されます。それが終わると、サタンも火の池に放り込まれます。

★ 黙示録 20 章 4 節-6 節

また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。

4 節「また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。」

多くの座に座っている者たちは、教会の聖徒たちであると考えられます。

第一コリント人への手紙 6 章 2 節「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。」

とパウロが異邦人教会の人々に言っています

黙示録 20 章 4 節「また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと……を見た。」

この人々は、イエスを信じたゆえに、**大患難時代前半に殉教**した人々です。

4 節「獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たち」

この人々は、**大患難時代後半に殉教**した人々です。

4 節-5 節「彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。」

大患難時代に殉教した人々は特別扱いで、千年間、王となる約束があります。この人々は、第一の復活にあずかっていますから、教会とは違います。

教会はご再臨前に、空中で主と出会う、教会用語で「携挙」と言われる空中再臨の時に復活します。

また、生き残っている者は一瞬にして変えられ、引き上げられることが第一コリント人への手紙 15 章 52 節と、第一テサロニケ人への手紙 4 章 17 節に記されています。

大患難時代に殉教した聖徒たちは、千年王国で活躍します。

教会はキリストの花嫁で、永遠にキリストの花嫁です。千年間だけ王となり祭司となって働くだけの者ではありません。大患難時代の聖徒たちは、第一の復活に関わっていますから、旧約の聖徒たちと同じ時に復活します。

では、教会の携挙は、いつになるのでしょうか。

大患難時代の始まりは、ダニエル書 9 章 27 節に預言されている最後の 7 年間の始まりです。

マタイの福音書 24 章 36 節「ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。」

このみことばは、いったん大患難時代が始まると当てはまりません。これは、教会の携挙のことを語っていると考えられます。

黙示録 20 章 5 節「そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。」

主のご再臨の時、教会は主と共に来ることが、ゼカリヤ書 14 章 5 節に記されています。

第一の復活と教会の携挙は、時間的にも場所的にも違います。

旧約の聖徒たちと、患難の聖徒たちの復活が、第一の復活です。

旧約の聖徒であるダニエルにみことばが語られています。

ダニエル書 12 章 13 節「あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。」

ダニエルの霊と魂は天国にいますが、時の終わりに体の復活があり、霊と魂が復活した体と合体して栄光の御体となります。これが第一の復活です。

黙示録 20 章 6 節「この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」

キリストの花嫁である教会や、第一の復活にあずかる旧約の聖徒や大患難時代の聖徒たちは、千年王国の終わりに起こる審判のための第二の復活には全く関係していません。

聖徒たちは、千年王国で生まれてくる多くの者たちを支配する王となり、神様へと導く祭司となります。

